

## 式 辞

桜の花が満開となり、春を謳歌しているこの佳き日に、令和七年度愛媛県立大洲農業高等学校入学式を、多数の御来賓の皆様の御臨席を賜り挙行できますことを、心から感謝申し上げます。

ただいま入学を許可いたしました、六十六名の新入生の皆さん、入学おめでとう。皆さんの入学を、在校生・教職員一同、心から祝福いたします。

本校は、大正十四年に、愛媛県大洲高等農業補習学校として開校されて以来、地域の皆様方の熱い思いに支えられながら、昨年度、創立百周年を迎えました。今後、愛媛県県立学校振興計画に基づき、令和八年四月に大洲高校との統合が始まります。百一年目の新たなスタートとなる今日、皆さんは、本校としては最後の入学式を迎え、その一員として、学校生活をスタートさせます。これまで自分を育ててくださった方々への感謝の気持ちを忘れず、これからの三年間、

思う存分その才能を伸ばしてください。高等学校は、皆さんが、自らの意志で選んだ学びの場です。自分の行動に責任を持ち、進んで学ぶ姿勢を持ち続けてほしいと思います。

さて、本校の校訓は「どこに出しても恥ずかしくない人間になれ」「国家社会の役に立つ人間になれ」という二本の柱から成り立っています。これは、将来の国家及び地域の有為な形成者として、伝統の継承と郷土愛を育み、国際的視野を持った人間を目指すことを意味しています。皆さんにはこの言葉を胸に、勉学や部活動等の様々な活動を通して友情を育み、たくましく成長してもらいたいと思います。

また、本校は農業専門高校として、地域にある様々な関係機関と連携した取組を行い、地域との絆を深めています。農業クラブ活動を中心とする諸活動においては、これまでも数多く県下に誇れる実績を残しています。今後も、地域と学校が一体となり、大洲市のすばらしさや、本校の魅力を最大限に発信していきたいと考えております。

最後になりましたが、保護者の皆様には、無事、今日の日を迎えられましたこと、心からお慶び申し上げます。私ども教職員一同の願いは、お子様が高校在学中に「知・徳・体」に集約された「生きる力」をしっかりと身に付けること、そして、高校生活を心の底から楽しむことです。大切なお子様をお預かりする以上は、三年後に、本校に来て本当によかったと思って卒業していただけるよう、力の限り教育に当たりたいと考えております。どうか、家庭と学校が一体となり、お子様の成長を支えることができますよう、本校の教育活動に対する御理解と御支援をお願い申し上げます、式辞といたします。

令和七年四月八日

愛媛県立大洲農業高等学校長 真鍋昌嗣